

私立大学図書館協会 2013年度西地区部会館長懇話会 要旨

日時:2013年6月21日(金)12:00~13:00

テーマ:「大学に求められる学習支援について
—ラーニングスペースの活用を通して—」

<Aグループ>

場所:皇學館大学 9号館 5F 大会議室

出席:33校 35名

開会の挨拶:愛知学院大学図書館情報センター 事務長 足立祐輔

議長:皇學館大学附属図書館 館長 高倉一紀

<Bグループ>

場所:皇學館大学 記念館会議室

出席:34校 37名

議長:愛知学院大学図書館情報センター 館長 實多國弘

A、B各グループ進行役の議長を選出。配布資料「2013年度 館長懇話会テーマ設定について」の趣旨に沿って、ラーニングスペースを活用した学習支援の事例紹介や抱える問題の提起等の依頼、ならびに時間配分について説明(事務局)。

<Aグループ>

愛知学院大学

今秋、図書館本館1F 450m²を共同学習の場、ラーニングスペースに改修。館内の既存施設とともに総合的な図書館を目指す。現在、準備中。

愛知学泉大学

法人と交渉中。図書館だけの問題とせず、ラーニングスペースを核にして大学教育を考えたい。

修文大学

短大が長く、4年制が一昨年完成年度を迎えたばかり。利用面やスペースについては未だ考慮中。

堀山女学園大学

学部増で図書館の狭隘化が問題。情報系統・検索面を考慮し、図書館リフォームという方向で調整中。

名古屋外国語大学

図書館を中心に、マルチメディアセンター、情報センターなど、すでにアクティブラーニングの環境あり。図書館にすべて取り込む構想はない。図書館最大の課題は学生の活字離れ、図書館離れへの対応。

名古屋芸術大学

芸術系のため、図書館も混沌としている。音楽系は音楽学部図書館としてあるが、“工房”を使う美術系は、共通工房が必要。図書館として、これらを統合してスペースを確保していく考えはない。

南山大学

文部科学省補助金でマルチ・ラーニング・エリア(視聴覚コーナー、News コーナー)を開設。ほかにもグループ・ラーニング・エリアあり。特に広報無しでも積極的利用あるが、ソフト面のサポートが必要。

金沢星稜大学

今年度4月にメディアライブラリーセンター開設。ラーニングスペースはキャンパス全体という考え方。地域貢献も担う。

京都産業大学

1987年中央図書館開設時、すでにグループ学習室あり。今年度4月には其々の学習室でPCとスクリーンを整備。ラーニングスペースは、文部科学省補助金で図書館とは別に来年度建設予定。図書館は、4月から一部改修し、同様の施設あり。

京都精華大学

一通りの施設はある。ラーニングスペースについては、図書館のワンフロアを開放したところ、結果的に学生の利用が多くなった。

京都橘大学

図書館のなかでスペース確保は難しい。全教室無線 LAN 整備で学習環境を整える。

奈良産業大学

グループ学習室備え付け PC も OS が古く、更新予算請求等で苦慮。

花園大学

学習支援室があり、更に充実させるためにラーニングコモンズの導入を大学側に訴えている。

福井工業大学

小規模大学のため、学生数に合わせたラーニングスペースを考えたい。今後、図書館から学生・地域社会へアピールしていく活動に取組みたい。

龍谷大学

新たに28000m²の教室棟建築予定あり。その一画に図書館を設置。キャンパス全体がラーニングコモンズという考えに同感。教員との協同、事務側の教育内容の理解、財政などが課題。

大阪工業大学

図書館に関心を持つもらうためのキーワード “PBL(Project Based Learning) 支援”、即ち、図書館を中心にプロジェクトを立ち上げることによって関心を集め、予算的にも安定。まず、利用を先に考えることが重要。

大阪電気通信大学

学生の図書館利用率アップに力を入れている。ラーニングスペースも将来的に造りたい。

近畿大学工学部図書館

メディアセンター(図書館と情報教育センターの融合施設)があり、比較的充実している。学習支援という立場では、別途の組織とスペースを図書館としてどのように支援、開拓していくかが課題。

神戸学院大学

基本的には学生が、図書資料を使って図書館で勉強することが重要と考えていた。現在、大学として模索中である。

常盤会学園大学

学部構成、教育内容に考慮した図書配架、図書館資料を活用したイベントなど、学生の図書館利用関心を高める取り組みを行っている。

武庫川女子大学

改築計画あり。今年度8月より改装。静かなイメージからサービス重視へのアクティブラーニング

を目指す。システム入れ替え、全館 LAN 整備、アクティブゾーンのゼミ室利用については、教員の協力を取り付けるなど、事前の取り組みを行っている。

桃山学院大学

1995年からグループ学習室はあるが、ラーニングコモンズという形にしていきたい。既存の学習支援センターとの連携も考え、内発的な学生の要求に図書館から打って出していくことが重要。大学の根幹は図書館である。

四国大学

財政的な裏付けが無いなか、補助金申請も考慮したい。

ノートルダム清心女子大学

狭隘化に苦慮。狭いながらも協力して図書館内に共同学習室を設けている。

広島工業大学

平成20年度にラーニングコモンズ設置。利用率悪い。与えるだけでなく、学生が使えるもの、要望するものを、大学だけでなく学生も含めた展開が必要。

広島女学院大学

4年ほど前から図書館における学習支援としてラーニングアドバイザー制度を導入。院生が務める実質ラーニングコモンズ。勉強法、国家試験対策などに対応。

松山大学

ラーニングコモンズ無し。グループ学習室の拡大化等を今後検討。

九州共立大学

図書館内に飲食可の「ちやちやルーム」設置。ソファ、円卓配置。

九州産業大学

3つのグループ学習室を運用。この学習室でゼミを行う際、いかに図書館の資料を利用してもらいうかが問題。教員の理解がないと難しい。

九州情報大学

学生の学習意欲の問題が大きい。図書館が毎年テーマを設定し、関連図書を集中的に購入。

熊本学園大学

今年度からラーニングコモンズ設置。Social Networking Service を使って広報。ラーニングコモンズとは One Stop Service であり、どれだけ実行できるかが重要。教員による論文作成指導、授業での積極使用、サークル展示などに活用。

純真学園大学

3年ほど前に開学。240名。看護、放射線、医学療法など国家資格が生命線。図書館が国家試験合格に力になれるよう対応している。

<Bグループ>

愛知工業大学

ラーニングスペースについて検討する時期。パーソナルリーディング、グループ学習双方のニーズがあるが、両スペースの設置は困難。学生意見の聴取段階。

愛知淑徳大学

本館所在キャンパスの学部増加に伴い、座席数が不足気味。物理的スペース拡大や蔵書削減は困難。スペース捻出、音(例:タイピング音)のゾーン分けにつき伺いたい。

愛知大学

両キャンパスともラーニングコモンズ(ラーニングスペース)あり。豊橋キャンパスの場合では、スペース設置以前から、卒論作成等での学生のグループ学習的実態があった。

中部学院大学

小規模校のメリットとして、学内の人とのコミュニケーションが緊密である。両キャンパスに30~40m²のガラス張りスペースあり。学生によるビブリオバトル(月1回)等を図書館がサポートしている。

中部大学

オハイオ大学と提携校で、ラーニングコモンズ導入に積極的だったこともあり、施設はあるが、日本(資格社会)と欧米(学歴社会)では、学習スタイルが異なる。スペースは学生に開放しており、資格取得学習に活用されている。今後、大学独自・日本独自の方法を模索する段階。

東海学園大学

新図書館建設予定だが、予算的制約の中、図書館機能の質を維持するべく取り組んでいる。情報センターとの連携で情報図書館課的部署の新設も視野に検討中。現図書館を解体しつつ、同じ場所に新図書館建設予定のため、アスペクト対策、解体費用の問題も生じる。

同朋学園(大学部附属図書館)

音楽大学では、以前からオーディオ機器等利用しており、ラーニングスペースに相当。文学部では、図書館よりも研究室、院生は、館内院生席よりも院生室を利用する傾向。スペース設置のみでなく、利用時間、利用方法等多面的に考える必要がある(夜間利用時の安全面の問題など)。

名古屋女子大学

近年、グループ学習スタイルへの移行傾向があり、図書館員としてはスペース設置の必要を感じるが、学内には館内設置の必然性を疑問視する声もある。

南山大学

館内設置に疑問の声も若干あり。ラーニングスペースの日本的な在り方の検討も必要。「いかに学ばせるか」に図書館が果たす役割が問題(ポスト・ラーニングコモンズ)。ラーニングスペースを設けたが、収蔵率を下げる・機関リポジトリ・電子化推進等問題との関係からも検討する情況。

金沢工業大学

キャンパス内の展開が「キャンパス=ラーニングコモンズ(教員と学生、学生同士が共同学習できる場)であり、図書館はその一部」という発想。スペース設置以前に、「図書館は学生に何を身につけさせるか」の実現の場として図書館があると考える。

京都外国語大学

情報部署主導でラウンジ的スペース(館外)を昨年度から設置。他大学で館内設置の必要性に議論もあることなので、このような方法も可能か。

京都産業大学

図書館にグループ学習・オーディオ機器・プレゼンテーションスペースがある。自動書庫棟オープンに伴い、館内にスペース確保も考えたが、プロジェクトで別建物を建設中。電子化が進行した将来の大学図書館の意義(「紙資料とレファレンス」以上の図書館の機能)を見直す時期。

花園大学

図書館は本来、ラーニングスペースであり、PC・視聴覚機器等備えたが、閲覧机で各種ツールを利用できる状態が望ましい。電子化により「場」としての図書館の必要性が希薄になりつつあったが、ラーニングコモンズという「空間」の概念が登場した。スペース新設は困難なので、自習室等へ図書館が出向く必要があるかもしれない。

龍谷大学

大学滞在時間と学生満足度・学習成果は比例関係といわれ、利便性・快適性が重要。館内にグループ学習エリアがあり、ラーニングコモンズへと充実させたい。学部との提携拡大、図書館改築に際してのゾーニングの明確化等、全キャンパス的にラーニングスペース充実を検討中。

大阪経済大学

図書館側からも要望し、ラーニングスペースあり。教員による演習指導での活用を見込んだが、利用者は少数。学生間ニーズの差(個人利用・グループ利用)には、利用フロアを分けて対応。

大阪樟蔭女子大学

来館増加のため、図書委員(学生)を募集し、委員の活動により学生の来館を促している。ラーニングスペースへの発展を期待。

大阪商業大学

ラーニングコモンズ設置を検討中。実学教育・一般教養の両立上、図書館は一般教養を担う。一般教養は数値化困難だが、図書館はどのように役割を果たすべきか。

大阪電気通信大学

教員より「図書館は静かに利用するべき」との意見も多く、館外にラウンジ形式スペース設置を検討中。来館促進のため、教員の協力も得て英語多読本を備え、貸出が増加した。

大手前大学・短期大学

「CELL」(開架書庫周囲にガラス張りの小部屋(セル)を設置し、学習支援・資格支援のセンター、PC等設置)を建設し、ラーニングコモンズ的に機能している。開館時間を延長したが、夕方はアルバイトに行く学生も多い。館員コメント付き図書展示により、貸出増加。教員による「ライブトーク」(月2回)を昼休憩時間に開催。

関西大学

図書館本来の機能の充実(外国に比べ遅れている貴重書等情報公開など)の上に、新機能を追加していくべきとの意見もある。蔵書300万冊、閲覧席2000席確保もあり、難しい状況。

神戸女学院大学

450m²程度のラーニングコモンズ開設。辞書・雑誌を置く、スペースを明るく等工夫により利用増加。可動式机・情報機器を設置。教員に課題を出してもらう等利用増加を図っている。

四條畷学園大学・短期大学

学内ゼミ室等がラーニングスペースとして機能。図書館の機能充実としては、迅速・広範な情報の提供(IT化、電子ジャーナル・書籍の整備)に重点を置いている。

岡山理科大学

理系大学のため「図書館文化」的風土ではなかったが、50周年事業建造物に図書館スペースを増設することになり、教養教育担当教員を中心にラーニングコモンズ設置機運が高まった。学習形態・学習スペースの在り方を再考し、設置に生かしたい。

就実大学・就実短期大学

全国で進行中の教育改革・図書館改革は、画一的パターンに収斂しすぎではないか。教員・学生の意識改革とハード面の改革を同時進行する必要がある。プロジェクトに実効性を持たせるのが重要。

広島経済大学

ラーニングスペース設置なし。図書館スタッフの質は高いが、専門的領域への対応はスペース設置のみでは不十分で、教員との連携が必要。情報活用できることが主眼であり、スペースにこだわらなくても良いのでは。

広島修道大学

文部科学省支援でラーニングスペースを4月より開設。大学では、学習支援センター・国際交流センターを統合し、ラーニングコモンズを計画中。情報収集にとどまらない思考力につけるために教員との連携が不可欠。各学部の図書委員(教員)を通し、利用促進への協力(図書案内、外国语多読本設置、課題を出す等)を依頼していく。

福山大学

5月にラーニングコモンズを開設(使用の少なかった在来スペースを転用)。教育と一体化した、学生滞在型図書館とするため、ゼミ利用、課題調査利用してもらうことで模索中。

鹿児島国際大学

館内グループ室よりもゼミ室利用が一般的だが、本日、学生の共同学習が効果的と伺い、今後活用の余地があると思う。開館時間を短縮した(21:00→19:00)。図書館が学生の自習場である必要性には、疑問もある(教員研究室に近い会議室を開放し、資格試験自習室としている)。

久留米大学

各大学の事情により、ラーニングスペースの必要性も異なる。館外の新棟に全学としてのラーニングスペース設置の方針。図書館としては、持ち込み品・充電(盗電)の規制について伺いたい。館長懇話会が、大学図書館が果たすべき機能を広く議論する場となれば面白い。

長崎外国語大学

ラーニングコモンズを3エリア(ラウンジ=グループ学習・プレゼンテーション、学習支援=教員が交代でオフィスアワーを過ごすし、資格試験対策、従来型スペース=飲料・私語禁止)に分割。4月から運用開始。

福岡女学院大学

1・2年先に書庫・ラーニングコモンズ計画あり。

福岡大学

新中央図書館を昨年オープン。居住性が良く、利用情況は良好。グループ学習室とラーニングコモンズあり(グループ学習室の利用頻度が高い)。雑談の場ではない知的議論の場を提供。

<Aグループ>

閉会の挨拶 皇學館大学附属図書館 館長 高倉一紀

質問及び意見交換は、各自、名刺交換、メールで対応を依頼した。

<Bグループ>

閉会の挨拶 愛知学院大学図書館情報センター 館長 審多 國弘

ご出席のすべての方(時間の制約から、立命館大学と愛知学院大学は発言なし)からご発言をいただき、共通の問題意識を持つことができた。日本らしい、しかも各大学に相応しい在り方を模索しつつ、ラーニングコモンズに限定されない組織的教育力の向上という、全学的な教育改革にどのように図書館がかかわっていけるかを考える視点が求められる。

なお、西地区部会長校 愛知学院大学より、参考となる意見が多いため大学名公表の上、「館長懇話会要旨」として西地区部会ホームページにアップすることを確認・了承。